

はすだね通信 第39号

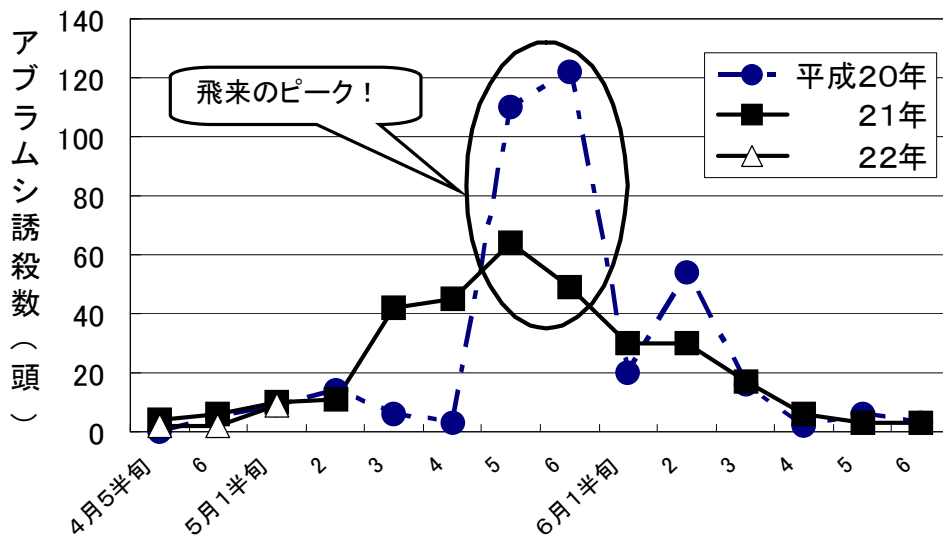
みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成22年5月7日発行

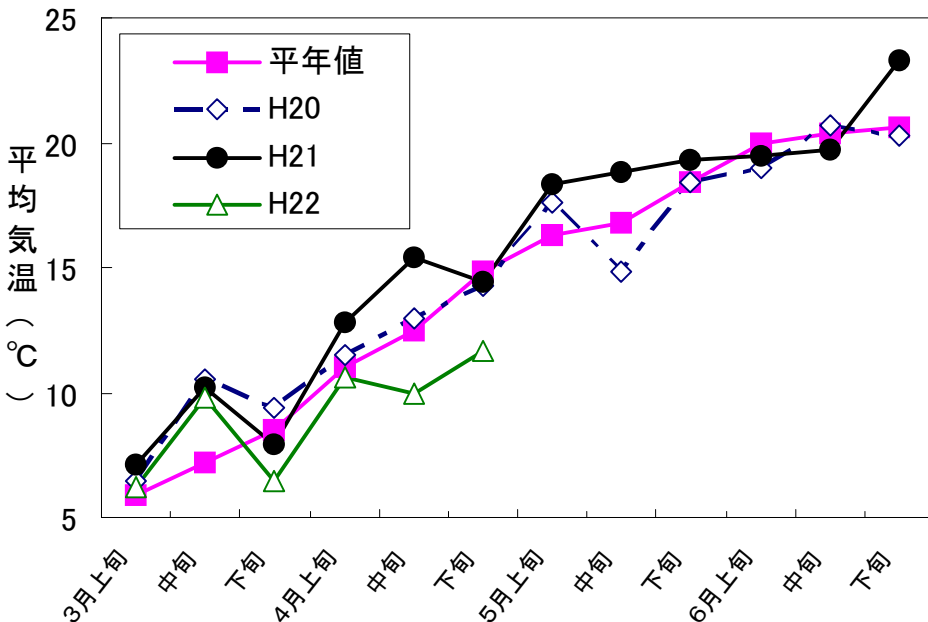
アブラムシの発生予察と早期防除について

普及センターで実施したアブラムシ（クワイクビレアブラムシ）の発生状況（飛来数）調査の結果、飛来数のピークは5月下旬でした。平成22年も5月第1半旬までは昨年までとほぼ同様の傾向です。今後の季節予報から、初期防除の実施には5月中旬の粒剤処理が有効と予想されます。



アブラムシの飛来数(誘殺数)の推移

1半旬:1~5日 2半旬:6~10日 3半旬:11~15日
4半旬:16~20日 5半旬:21~25日 6半旬:26~30(又は31)日



平成20年~22年の3月から6月の平均気温の推移

農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意して下さい。

アブラムシは、卵で越冬し、春先に羽の生えた成虫となりほ場に飛来します。飛来したアブラムシはレンコンの浮葉や立葉に寄生して羽の無いタイプとなり増殖します。時期別のアブラムシの飛来数のデータは適期防除に活用できます。

アブラムシの飛来数(左上図)の増加は、平均気温(右下図)が高くなれば早くなります。平成21年は20年より平均気温が高く推移し、飛来数も早く増加しました。

平成22年の5月第1半旬までの飛来数は、平均気温は低いものの前年までとほぼ同様の推移です。

気象庁の季節予報によると5月の気温は平年並かやや高いと予想されています。今年も飛来のピークは5月下旬となる可能性があります。粒剤はレンコンに吸収されてから効果の発現に処理後数日を要するので、5月中旬には処理を行いましょう。

環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!